

「お前が噂の勇者様か……？
はっ、なんだよ全然強そうに見えねえな！」

装備を整えて国から出発した自分を
最初に出迎えたのは獣の耳と尻尾が
ついた二人の青年だった

「二応名乗つとくぜえ。オレ様は魔王軍四天王が二人、
獣人族のヴィルク様だ！」

なんてことだった……この世界にきて
戦いの訓練はしてきたが実戦はまだ未経験だ！
そんな状況でいきなり四天王と戦うなんて……

「魔王様は勇者に対しては最大限の警戒を行う
ようにとおっしゃっていたがよお
こんな弱そうな野郎なら俺様二人で十分よ！」



世界観

およそ100年ほど前までは比較的平和な情勢が続いており、人々は様々な思いを胸に日々の生活を送っていた。

しかし、ある日魔王を自称する者が人間に宣戦布告を行い世界が激変していった。当然人々はこの戦線布告に対して真剣にとらえることはなかったが、とある小国と魔王軍との戦果報告を聞きその考えが間違いであったことを知る。

「---小国の軍は全滅---これにより小国の領土は魔王軍の手中に堕ちた」
報告の詳細を確認すると魔王は1000人規模の軍勢を引き連れて小国に侵攻してきたという。そして奇妙なことにすべての兵士が通常の人間と異なり動物の耳や尻尾、はたまた龍種と思われる角や尻尾がついていたり、鋼鉄の肌を持つ青年だったという。また、何もないところから炎を生み出したり、光のような物体で小国の兵士は次々と倒されていったとされ、まるでそれはおとぎ話にしか出てこない「魔法」だった。このことは瞬間に人々の間に広まった-----「魔王軍は魔法が使える」と-----

その後は魔王軍の蹂躞が続き100年間で人間の領土は当時の3割程度しかなくなってしまった。既存の武器では魔王軍を倒すことができないと悟った人々はここ数年に発掘した伝記に記されている「勇者召喚の儀」に一つの望みをかけた・・・。

魔王軍

魔王を筆頭にした人間とは異なる特徴を持った青年達で構成されている。魔王軍の目的は人類の排除・・・とかそんなことはなく、男の娘ハーレムを築きたいがために設立された軍団。魔王以外のものはすべて魔王が一から生み出した新種族でありメイドイン魔王。

しかし魔王軍には最初から男の娘として作成されたものは一人もおらず、このことについて魔王からのコメントが「普通の少年たちが少しづつメスとなっていくところが見たい」とコメントしている。上記のように魔王軍は同性である男性に恋したり主従の関係を築こうとすると心や体がそれにともなって変化する体質になっている。



獣人族

獣人族は獣の耳、尻尾、爪、などの特徴が備わっており、肉弾戦を得意とする傾向にある。また、獣人族は体のどこかにマーキングをつける修正を持っている。このマーキングの意味する内容は以下のようにになっている。

- マーキングの位置：目立つところであるほど強者の証となり、逆に陰部等の目立たない場所にあるほど弱者の証となる
- マーキングの形：直線であればあるほど立派な戦士としての証となり、逆に曲線であったり最悪の場合円形などだと弱虫、女々しいなどの証となる
- マーキングの数：負けるたびにマーキングを一つ加えなければいけない伝統になっておりマーキングが多いほど戦いに敗れてきた数の証となる



敗北前



敗北後





…何だよ

ムラムラしたのでこの後
一時間ほどセックスした

フリフリ♡











